

編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
106-254	高等学校	国語	言語文化	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教科書名		
212 桐原	言文 212-901	探求 言語文化 改訂版		

1. 編修の趣旨及び留意点

本書は、高等学校学習指導要領「言語文化」に準拠して編修した教科書である。教育基本法第2条にある目標と「言語文化」の目標の両方の達成を可能にするため、言語を通して伝え合う力を高め、思考力・判断力・表現力を育成しつつ国語力を高められるよう、題材の選定と学習内容の構成・展開に留意した。

2. 編修の基本方針

教育基本法第2条に示す教育目標を達成するため、以下の点を編修の基本方針とした。

①指導しやすい単元構成

多様な教育現場の学力レベルと指導形態に対応できるよう、「古文編」「漢文編」「近代以降の文章編」の3部構成とした。「古文編」「漢文編」はジャンル別単元とした。また、この3部構成での学習を円滑に進めるための導入部として、冒頭に「〈知〉のコミュニティへ」を設置した。

②教材の配置と学習の指針

各教材は、内容のまとまり・指導の時間数を考慮したうえで適切な分量の優れたものを精選した。また、学習上・指導上の効果を考慮して、より易しいものから難しいものへと配列した。各教材の本文の前に「本文スコープ」を設定し、本文読解の手がかりとなる着眼点を掲げた。また教材末尾には、「読解」「表現」「発展」の問題から成る「学習の手引き」を設けるとともに、各教材における最終的な言語活動の到達目標を示す「活動」を設定し、学習の指針となるようにした。

③教材の理解と主体的な言語活動

学習者の理解力養成のため、各教材の本文下段には内容理解を促す小問を付したほか、末尾の「学習の手引き」には内容理解を深め、主題に迫るための「読解」問題を必ず設けた。さらに、主体的な学びに誘うための言語活動を各教材に設けた。そのほか、言葉の特徴や使い方、言語文化に関する知識の学習に資するため、「古文編」では重要古語を、「漢文編」では基本句形を、各教材の本文下段にまとめた。

3. 対照表

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所 (ページ)
● 〈知〉のコミュニティへ 「ことばの風、文化の記憶」 1 単元 (2 教材)	①伝統と文化を尊重する態度を養い、伝統的な言語文化への興味・関心を広げられるよう、文語的表現に目を向ける教材「SAKURA」と、古典作品の世界に分け入る教材「ことばが運ぶ文化の記憶」を配した (第5号)。	①14～30
● 古文編 古文編導入文	①伝統と文化を尊重する態度を養い、伝統的な言語文化への興味・関心を広げられるよう、古文編導入文として「古典と文化・古文と古語」を設けた (第5号)。	①32～33
● 古文編 5 単元 (35 教材)	①伝統と文化を尊重する態度を養い、伝統的な言語文化への理解を深められるよう、古文編に5単元を設け、古文の多彩な表現に触れられる35教材を配した (第5号)。 ②先人の感性を通して、自然と人間のあり方に目を向ける教材「徒然草 花は盛りに」を配した (第4号)。	①34～148 ②62～63

●古文編 「文法の基礎」1～3 「文法の要点」1～4	①文語の決まりや言葉の成り立ち、表現の特色などについての知識を深められるよう、「文法の基礎」1～3 および「文法の要点」1～4 を設けた（第1号）。	①37～39 ・44～45 ・52 ・149～156
●古文編 港千尋「場所の記憶を残す恋歌」	①伝統と文化を尊重する態度を養い、伝統的な言語文化への理解を深められるよう、歌枕を用いた恋歌に込められた意味を読み解く教材「場所の記憶を残す恋歌」を配した（第5号）。	①127～133
●漢文編 漢文編導入文	①伝統と文化を尊重する態度を養い、伝統的な言語文化への興味・関心を広げられるよう、漢文編導入文として「漢文を学習するということ」を設けた（第5号）。	①158
●漢文編 5 単元（28 教材）	①伝統と文化を尊重する態度を養い、伝統的な言語文化への理解を深められるよう、漢文編に5 単元を設け、漢文の多彩な表現に触れられる28 教材を配した（第5号）。 ②自主および自律の精神を養い、人生について考えを深められるよう、「思想」単元を設け、「論語」「孟子」の教材を配した（第2号）。	①168～232 ②218～226
●漢文編 「漢文の基礎」 「漢文の要点」1・2	①訓読の決まりや言葉の成り立ち、表現の特色などへの知識を深められるよう、「漢文の基礎」および「漢文の要点」1・2 を設けた（第1号）。	①159～167 ・233～236
●漢文編 「古典の魅力—現代からの視点」 松浦友久「友情」	①伝統と文化を尊重する態度を養い、伝統的な言語文化への興味・関心を広げられるよう、漢文を現代からの視点で読み解く教材「友情」を配した（第5号）。	①204～209
●近代以降の文章編 近代以降の文章編 導入文	①言語文化の伝統を受け継ぐ近代以降の言語表現について理解を深められるよう、近代以降の文章編の導入文として「言語文化の近代——「自分」と外界」を設けた（第5号）。	①238～239
●近代以降の文章編 「近代の小説」 (4 教材)	①正義と責任、自己と他者との関係について考えを深められるよう、「近代の小説」単元を設け、多彩な内容を持つ4 教材を配した（第3号）。	①240～287
●近代以降の文章編 「近代の文体」	①伝統と文化を尊重する態度を養い、伝統的な言語文化への興味・関心を広げられるよう、明治期の小説の文体に着目させる教材「文体の変遷」を配した（第5号）。	①288～293
●近代以降の文章編 「近代の詩」 (4 教材)	①創造性を培い、自主および自立の精神を養うことができるよう、「近代の詩」単元を設け、多彩な表現に触れられる4 教材を配した（第2号）。	①294～299
●近代以降の文章編 「近代の短歌・俳句」	①幅広い知識と教養を身に付け、豊かな情操と道徳心を培えるよう、「近代の短歌・俳句」単元を設け、多彩な表現に触れられる教材を配した（第1号）。	①300～305

●近代以降の文章編 「現代の小説」 小川洋子「ひよこトラック」	①人間の真理を求める態度を養い、豊かな情操を培えるよう、登場人物の心情の移り変わりを通して作品の主題を捉える教材「ひよこトラック」を配した（第1号）。	①306～319
4. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色		
・一般的な教養を高めるとともに、専門的な知見に触れられるよう、「古文編」「漢文編」に「コラム（1～9）」を設けた。（「古文編」53、80～81、85、96、114～115、142～143、「漢文編」179、215、227） ・各教材本文から見えてくる当時の世界観を解説した「古典世界ビュー」を、「古文編」の7教材および「漢文編」の5教材に設けた。 ・各教材の出典に関する理解を深められるよう、「古文編」の「伊勢物語」と「古今和歌集」、「漢文編」の「論語」に、作品の成立や構成について解説した「構成と概観」を設けた。		

編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表、配当授業時数表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
106-254	高等学校	国語	言語文化	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教科書名		
212 桐原	言文 212-901	探求 言語文化 改訂版		

1. 編修上特に意を用いた点や特色

個々の教材の採録にあたっては、全体として、学習指導要領の「2 内容」の各事項に沿った指導ができるよう、優れた表現と構成を持ち、主題や内容が明確で、適度な長さのものを厳選した。また、教材間に、本文の学習をより深めるための資料として「コラム1～9」「構成と概観」「文法の基礎」「文法の要点」「漢文の基礎」「漢文の要点」を、巻頭巻末に「付録」を設けた。

2. 対照表

図書の構成・内容			該当箇所 (ページ)	学習指導要領の内容			配当時数	
編	単元	教材名		知識及び技能	A 書くこと	B 読むこと	A	B
ミ ュ ニ テ ィ ヘ	こ と ば の 風 、 文 化 の 記 憶	SAKURA	14～15	(1)アイウ		(1)ウ		1
		ことばが運ぶ文化の記憶 ——近代・近世・中世・中古・上代・漢文	16～30	(1)アウ(2)イオ		(1)エオ		1
古 文 編	古 文 入 門	古典と文化・古文と古語	32～33	(1)ア			—	—
		児のそら寝〔宇治拾遺物語〕	34～36	(1)ウエ(2)ウ		(1)アイ		1
		●文法の基礎 1	37～39	(2)ウ			—	—
		検非違使忠明のこと〔宇治拾遺物語〕	40～41	(1)ウエ(2)ウ		(1)アイ		1
		大江山〔十訓抄〕	42～43	(1)ウエ(2)ウ		(1)アイ		1
		●文法の基礎 2	44～45	(2)ウ			—	—
		花盗人の歌〔沙石集〕	46～47	(1)ウエ(2)ウ		(1)アイオ		1
		鷹使いの見た夢〔沙石集〕	48～51	(1)ウエ(2)ウ	(1)イ		1	
		●文法の基礎 3	52	(2)ウ			—	—
		〔コラム1〕古文はタイムマシンだ	53	(1)ア(2)エ			—	—
		◇古文解析の実際 海賊の感泣〔十訓抄〕	54～55	(1)ウ(2)ウ		(1)アイ	—	—
	随 筆 と 日 記	徒然草 つれづれなるままに	56	(1)ウエ(2)ウ		(1)アイ		1
		徒然草 ある人、弓射ることを習ふに	56～57	(1)ウエ(2)ウ		(1)アイ		
		徒然草 奥山に猫またといふもの	58～59	(1)ウエ(2)ウ		(1)アイウ		1
		徒然草 丹波に出雲といふ所あり	60～61	(1)ウエ(2)ウ		(1)アイ		1
		徒然草 花は盛りに	62～63	(1)ウエ(2)ウ		(1)イエオ		1
		◇比較で深める 兼好法師が詞のあげつらひ〔玉勝間〕	64～65	(1)ウエ(2)ウ				
		枕草子 春はあけぼの	66～67	(1)ウエ(2)ウ		(1)アイオ		1
		枕草子 ありがたきもの	68～69	(1)ウエ(2)ウ	(1)アイ		1	

図書の構成・内容			該当箇所 (ページ)	学習指導要領の内容			配当時数	
編	単元	教材名		知識及び技能	A 書くこと	B 読むこと	A	B
古文編	随筆と日記	枕草子 九月ばかり	70～71	(1)ウエ(2)ウ		(1)アイ		1
		土佐日記 門出	72～74	(1)ウエ(2)イウ	(1)アイ		1	
		土佐日記 かしらの雪	75～76	(1)ウエ(2)ウ		(1)アイ		1
		土佐日記 帰京	77～79	(1)ウエ(2)ウ		(1)アイ		1
		〔コラム2〕うなぎ屋さんの「うふぎ」―変体仮名の話―	80～81	(1)ア(2)エオ			—	—
古文編	物語と軍記	竹取物語 なよ竹のかぐや姫	82～84	(1)ウエ(2)ウ		(1)アイオ		1
		〔コラム3〕「語り」の文学	85	(1)ア(2)ウ			—	—
		竹取物語 かぐや姫の嘆き	86～88	(1)ウエ(2)ウ		(1)アイウ		1
		構成と概観「伊勢物語」	89	(2)イ			—	—
		伊勢物語 芥川	90～91	(1)ウエ(2)ウ		(1)アイ		1
		伊勢物語 東下り	92～95	(1)ウエ(2)イウ		(1)アイ		1
		〔コラム4〕「伊勢物語」のパロディー	96	(1)ア(2)イ			—	—
		伊勢物語 筒井筒	97～99	(1)ウエ(2)ウ		(1)アイ		1
		伊勢物語 梓弓	100～101	(1)ウエ(2)ウ		(1)アイエ		1
		伊勢物語 小野の雪	102～103	(1)ウエ(2)ウ		(1)アイ		1
		平家物語 祇園精舎	104～105	(1)ウエ(2)ウ		(1)アイウ		1
		平家物語 木曾の最期	106～113	(1)ウエ(2)ウ		(1)アイ		
		〔コラム5〕物語と「むかし」	114～115	(1)ア(2)エ			—	—
	和歌と俳諧	万葉集	116～118・ 124～125	(1)ウオ(2)ウ		(1)アイエ		1
		構成と概観「古今和歌集」	119	(2)イ				
		古今和歌集	120～121・ 124・126	(1)ウオ(2)ウ		(1)アイエ		
		新古今和歌集	122～124 ・126	(1)ウオ(2)ウ		(1)アイエ		
		伝統と文化 場所の記憶を残す恋歌	127～133	(1)イウエオ(2)カ	(1)アイ		1	
		奥の細道 旅こそ栖	134～136	(1)ウエ(2)イウ		(1)アイウ		1
		奥の細道 那須野の少女	137～138	(1)ウエ(2)ウ		(1)アイ		1
		奥の細道 平泉懐古	139～141	(1)ウエ(2)ウ	(1)アイ		1	
		〔コラム6〕蛙は古池に飛び込まない	142～143	(1)ア(2)イ			—	—
	翻案	簾史と弄玉〔唐物語〕	144～146	(1)ウエ(2)ア		(1)アイウ		1
		怪を語れば怪至る〔伽婢子〕	146～148	(1)ウエ(2)ア		(1)アイウ		1
		●文法の要点1（助動詞）	149～151	(2)ウ			—	—
		●文法の要点2（助詞）	152～153	(2)ウ			—	—
		●文法の要点3（敬語）	154～155	(2)ウ			—	—
		●文法の要点4（和歌の修辞）	156	(1)オ(2)ウ			—	—

図書の構成・内容			該当箇所 (ページ)	学習指導要領の内容			配当時数	
編	単元	教材名		知識及び技能	A 書くこと	B 読むこと	A	B
漢文編	漢文入門	漢文を学習するということ	158	(1)ア(2)ア			—	—
		●漢文の基礎	159～167	(2)ウ				1
		推敲〔唐詩紀事〕	168～169	(1)ウエ(2)アイウ		(1)アイエ		
		漁父之利〔戦国策〕	170～171	(1)ウエ(2)アウ		(1)アイ		1
		知音〔呂氏春秋〕	172～173	(1)ウエ(2)アウ		(1)アイ		
		朝三暮四〔列子〕	174～175	(1)ウエ(2)アウ		(1)アイ		1
		塞翁馬〔淮南子〕	176～178	(1)ウエ(2)アウ	(1)アイ		1	
		〔コラム7〕 故事成語に親しもう	179	(1)ア(2)ア			—	—
		◇漢文解析の実際	180～181	(1)ウ(2)ウ		(1)アイ	—	—
	史伝	鶏口牛後〔十八史略〕	182～183	(1)ウエ(2)アウ		(1)アイエ		1
		鶏鳴狗盗〔十八史略〕	184～187	(1)ウエ(2)アイウ		(1)アイエ		1
		管鮑之交〔史記〕	188～190	(1)ウエ(2)アウ		(1)アイ		1
		臥薪嘗胆〔十八史略〕	191～193	(1)ウエ(2)アウ		(1)アイ		1
	詩文	絶句（杜甫）	194	(1)ウ(2)アウ		(1)アイウ		1
		登鸛鵲楼（王之涣）	195	(1)ウ(2)アウ		(1)アイウ		
		早発白帝城（李白）	196	(1)ウ(2)アウ		(1)アイウ		
		送元二使安西（王維）	197	(1)ウ(2)アウ		(1)アイウ		1
		楓橋夜泊（張継）	198	(1)ウ(2)アウ		(1)アイウ		
		涼州詞（王翰）	199	(1)ウ(2)アウ		(1)アイウ		
		登岳陽楼（杜甫）	200	(1)ウ(2)アウ		(1)アイウ		1
		送友人（李白）	201	(1)ウ(2)アウ		(1)アイウ		
		八月十五日夜、禁中独直、対月憶元九（白居易）	202	(1)ウ(2)アウ		(1)アイウ		
		◇比較で深める「聞白樂天左降江州司馬」（元稹）	203	(1)ウ(2)アウ		(1)アイウ		1
		【古典の魅力—現代からの視点】友情	204～209	(1)ウ(2)イ		(1)アイウ		
		雑説（韓愈）	210～211	(1)ウエ(2)アウ		(1)アイ		1
		愛蓮説（周敦頤）	212～214	(1)ウエ(2)アイウ		(1)アイエ		1
		〔コラム8〕 漢字はどこまで簡単に？—中国の簡体字	215	(1)ア(2)アエ			—	—
	思想	構成と概観「論語」	216～217	(2)イ			—	—
		論語	218～223	(1)ウ(2)アイウ		(1)アイ		1
		孟子	224～226	(1)ウ(2)アウ		(1)アイオ		1
		〔コラム9〕 孔子とその弟子	227	(2)アエ			—	—
	日本の漢文	読家書（菅原道真）	228・230	(1)ウ(2)ア		(1)エオ		
		蚩（菅茶山）	229・230	(1)ウ(2)ア		(1)エオ		1
		無題（夏目漱石）	230	(1)ウ(2)ア		(1)エオ		
		野中兼山（原念斎）	231～232	(1)ウ(2)アイ		(1)アイ		
		●漢文の要点1（主な句形）	233～235	(2)ウ			—	—
		●漢文の要点2（漢詩の修辞）	236	(2)ウ			—	—

図書の構成・内容			該当箇所 (ページ)	学習指導要領の内容			配当時数	
編	単元	教材名		知識及び技能	A 書くこと	B 読むこと	A	B
近代以降の文章編	近代の小説	言語文化の近代 ――「自分」と外界	238～239	(2)アオ			—	—
		羅生門	240～252	(1)イウエ(2)カ		(1)ウエ		4
		◇比較で深める「羅城門の上層に登りて死人を見る盗人のこと」	253～255	(1)ウエ				
		城の崎にて	256～267	(1)イウエ(2)カ		(1)イエ		3
		蠅	268～278	(1)イウエ(2)カ		(1)イエ		2
		猿が島	279～287	(1)イウエ(2)カ		(1)イエ		3
	近代の文体的	文体の変遷	288～293	(1)ア(2)オ		(1)ウエ		3
	近代の詩	小諸なる古城のほとり	294～295・299	(1)ウ		(1)ウオ		1
		道程	296・299	(1)ウ		(1)ウオ		
		蟬頃	297・299	(1)ウ		(1)ウオ		1
		鶯のうへ	298～299	(1)ウ		(1)ウオ		
	近代の歌・俳句	近代の短歌八首	300～301・305	(1)アオ	(1)アイ		1	
		近代の俳句八句	302～305	(1)アオ	(1)アイ			
	現代の小説	ひよこトラック	306～319	(1)イウエ(2)カ		(1)イエ		3
							7	63
							総計	70